

2002年1月29日

生物多様性国家戦略の見直しについて

氏名：弦間 一郎（げんま いちろう）

新・生物多様化国家戦略骨子全般については、希少種を保全することに加え、里地・里山に代表される生物多様性について新たな項目をおこしていることは大いに評価できると思います。

一方、福島県内で自然環境を保全するための活動に携わっている立場からすると、この戦略を実行に移すためのいくつかの問題点があると考えます。

1. 戦略を推進するための人的資源が極端に不足していること。

わが国で、この戦略を実行に移すには、さまざまな地域で固有の自然環境、社会環境に合わせた施策が必要になると思いますが、福島県内においては、自然環境を正確に把握し、記録する専門家の数が非常に限られています。また、自然環境の保全の必要性を多くの県民に伝え、理解してもらうための環境教育の専門スタッフも少ない数しかありません。

さらには、効果的な保全方法を地域社会の中で考案し、実施するための専門的スタッフも自治体、NPO、企業などさまざまなセクターにかかわらず、その数は少ないのが現状です。

2. 地域社会における「生物多様性」の重要性、必要性の認識が不足していること。

希少種の保全については、ある一定の理解は進んでいるように思われるが、福島県内でごく普通の景観である「里地・里山における生物多様性の意義」は、ほとんど認識されていないのが実情であります。

3. 地域社会における戦略目標達成のための社会システムが未熟であること。

時代とともに変化しつつある地域社会のあり方を提案し、実行に移すための社会システムが、福島県内では、未熟であると思われます。

以上の問題点は、福島県内だけに留まらず、大学などの研究機関が少なく、専門的な人材が少ない地方では同様に存在するのではないのでしょうか。

私が、今回の新・生物多様化国家戦略に期待したいのは、日本のさまざまな地域で戦略をすばやく、正確に実行するための人材育成をより重点目標として掲げていただきたいということです。

よろしく願いいたします。